

おはようございます。校長の倉崎です。

1日早まった終業式。皆さんと一緒に2学期を、そして今年を振り返りたいと思います。

今月、京都清水寺にて「今年の漢字」が発表されました。覚えていますか。そう、「戦」でした。皆さんがそこから最初に連想したのは何だったのでしょうか。おそらく、多くの方がそうであるように、私もウクライナをはじめ世界各地で続く戦禍を思いました。

朝夕、昇降口で時間割を見ているような反応をしている姿を見かけます。時間割、学校行事、部活動の大会、そして受験。当たり前で明日や将来を考えられることのありがたさ。わが家がありふるさがある幸せ。それらを痛感すると共に、同じ地上に生きる人間として我々は何をなすべきだろうかと考え続けた1年でした。

さて、南高の2学期はこの言葉から始まりました。「**一新紀元**」——このスローガンのもと、アイデアを出し合い議論を交わし、時間との戦いの中で成し遂げた朱雀祭。3年生を中心に組同士が競い合い称え合う姿が目には焼き付いています。この朱雀祭をはじめ、3年ぶりの2年生研修旅行、球技大会、課題研究やフィールドワークなどのSSHプログラム。教育活動も部活動の大会も、ほぼ予定どおり実施できたことは大きな喜びです。もちろん、一つ一つの背景には、実施方法の工夫や感染症対策など、多くの苦労があり支えがありました。心から感謝します。

2学期をとおして印象に残ったのは、「**行動する**」南高生の姿です。

進路実現に向けて早朝から遅くまで自学したり個別指導を受けたりする3年生の姿がありました。教室、記念館、青雲寮、それぞれの場所で自分との戦いを続けています。

一方、探究を深め、次のアクションに移す南高生の姿が随所で見られました。地域や、ときにはオンラインで県外・海外に飛び出して、いわゆる「新しい景色」を見た人も多くありました。ボランティアに参加した人、困っている人を助けるためとっさに行動した人。きっと誰かの心に灯をともしてくれたと思います。

どうか振り返ってみてください。あなたがたの中には、エイヤツと一步踏み出した場面が必ずあるはずです。たとえささやかでも、悩みながらも、それは勇気ある「**挑戦**」です。

ただし、挑戦には失敗や立往生がつきものです。肝心なのは、安心して失敗できる環境、武装なんかしないで自然でいられる、弱音も言える場所があることではないでしょうか。この学び舎をそんな場所にするのは、生徒、教職員、つまり私たちの努力にかかっていることを忘れてはなりません。

最後に、今年の「戦い」の中で私の胸に刻まれた場面を紹介します。(→「**三苦の1mm**」の記事) 失敗も含め何千回、何万回と蹴った中からこの一球が生まれたんだな、とか、粘って生かした一球を仲間がつかないで逆転ゴールが生まれたんだな、とか。「**ドーハの悲劇**」を見ていた者として、いろんな意味で胸が熱くなりました。

明日からの冬休み、コロナ禍もお天気も心配は続きますが、皆さんが心身ともに健康で、新たな年に踏み出すことを祈っています。1月10日、元気に会いましょう。

これをもって、令和4年度第2学期を終了します。